

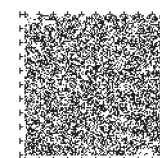
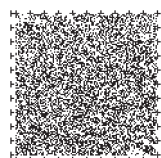
02

地域 | グローバル

アートやスポーツで心身を育み 世界のどこに暮らしていても 希望のある将来像が描ける未来

〔活動紹介〕

- 江夏の日常に無形文化遺産を | イオンモール武漢江夏 (中国・湖北省武漢市江夏区)
- 寧西街合同就職説明会 | イオンモール広州新塘 (中国・広東省広州市増城区寧西街)
- 全国ムエタイチャンピオンシップ2024 | イオンモール ビンズオンキャナリー
(ベトナム・ビンズオン省トゥアンアン)
- カンボジア王立芸術大学との文化芸術振興に向けた取り組み | イオンモール ミエンチェイ
(カンボジア・プノンペン市ミエンチェイ区)
- コミュニティ・クラス (文化の学習やスポーツ体験) | イオンモール ジャカルタガーデンシティ
(インドネシア・ジャカルタ首都特別州東ジャカルタ市)



江夏の日常に 無形文化遺産を

イオンモール
まちのコミュニティ
Regional community mall

どんなプロジェクト？

中国の人々が代々伝えてきた伝統文化を「無形文化遺産」と言い、江夏区には梁子湖の伝説、楚地菖蒲造景、舞龍金口草把龍や製紙など代表的な無形文化遺産が96あります。それらの魅力を地域の皆さまに浸透させ、保全意識を高めていただくことを目的にイオンモール武漢江夏では年間を通じてイベントを開催しました。

世代を超えて、文化を通じた地域愛を。
江夏文化の伝統を再発見する拠点になる。



春節・無形文化遺産演出 [江夏区文化館]
金口草把龍・長江中流武漢江夏金口地域で行われていた、1年の豊作を農地のわらで竜をつかって祝う儀式を、ダイナミックに再現しました。



開催地域： 中国湖北省武漢市江夏区

武漢市の中央を流れる長江の東側「武昌」エリア南部の新都心。2300年の歴史があり「楚天首県」とも呼ばれ、文化的な観光資源が豊富。武漢市の三大産業である自動車産業・ハイテク産業・ヘルスケア産業の工場や研究開発センターなどが誘致されており、地下鉄など交通インフラの整備も進んでいます。

ここがユニーク！

江夏文化館を中心に、9つの政府部門、8つの地域文化組織、24の大学との連携を実現しました。

開催施設：イオンモール武漢江夏

江夏の生活拠点の中心地に位置。大型公園を中心に銀行やオフィスなどが入る「ビジネスエリア」、江夏区政府などがある「公共サービスエリア」、テクノロジー企業などが立地する「企業研究開発エリア」の3つのエリアに囲まれています。

基本商圏：車20分圏 約39万世帯・約143万人(居住者・就業者を合わせた人数)
出店店舗数：約260店舗(専門店舗)
敷地面積：約106,000㎡
駐車場台数：約4,500台
オープン日：2023年11月1日



江夏区文化館 × イオンモール武漢江夏



江夏区文化館
じょ けいしょう
館長 徐 竟 翔 さま



イオンモール武漢江夏
しゅ さん
営業担当 朱 璿

江夏の無形文化遺産を守り 広めていくという使命感

徐さん：私は、芸術系の大学で油絵を勉強していました。北京で芸術活動などを行ったのち、地元である江夏区に戻り、武漢江夏文化館に勤めるようになりました。そして、長江周辺の歴史や文化を勉強する中で、武漢市江夏区の無形文化遺産を多くの人に知ってもらわなければならないという使命感を感じたのです。また、ただ知ってもらうだけでなく、さまざまな産業とコラボレーションし伝統文化の付加価値を高めること。その伝統文化が市場を広げて新たな消費場面を生み出すこと。そしてさらに

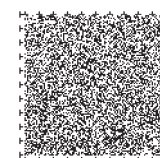
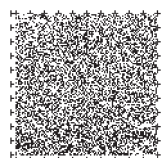
伝統文化の担い手たちを経済的にも支えていくこと。そういった伝統文化を中心にした好循環をつくる役割を果たしたいと思うようになりました。

朱：私たちはモール開業前に、江夏区文化館と旅行局の方から「江夏の無形文化遺産を広めるために積極的に活動しているが、もともと無形文化遺産に関心を持っている特定の人々にしか伝えられず困っている」という課題を聞く機会がありました。私たちが「江夏文化の魅力発信の拠点」となることができれば、地域の皆さまに知っていただき、文化発展にも寄与できると考えました。

徐さん：イオンモールがまだ建設中の段階で江夏文化館にも来ていただき、皆さんとは何度も意見交換をしましたね。その時に、イオンモールは集客力や宣伝力があるだけでなく、地域にどう貢献できるか、社会的な責任をどう果たしていくか、とても真剣に考えているのだと感じました。そのように信頼関係を築いていく中で、2024年の「江夏の日常に無形文化遺産を」の企画が決まりました。企画を行政に報告するとすぐに承認が下り開催が実現しました。

共創パートナー 江夏区文化館

1951年設立。江夏区の無形文化遺産の保護や市民文化活動の推進に力を注ぐとともに、無料の芸術教育講座や若者向け夜間スクールも運営しています。これにより、地域住民が中国の伝統的な祝祭や文化を学び、体験する機会を提供しています。





「文化と自然遺産の日」開幕式の様子

オンラインを含め、 年間を通じて20万人が参加 想像を上回る反響

朱: 今回の「江夏の日常に無形文化遺産を」イベントで特にポイントとして考えていたのは3つでした。

徐さん: はい。1つ目は若者に興味関心を持ってもらうこと。無形文化遺産を継承していくために、そして新しい価値を生み出していくためにも、若者へのリーチは欠かせませんでした。2つ目はイベントの告知と認知拡大の施策をしっかり考えること。できるだけ多くの人にイベントの存在を知ってもらうこと。それからメディアでどんな風に取り上げられれば無形文化遺産への注目が高まるかということ。それらのメディア戦略も重要なポイントだと考えていました。3つ目は無形文化遺産から経済的価値を生み出すこと。伝統文化がきちんと市場として機能し、さらに伝承者の皆さんが経済的に自立できること。それがとても重要だと思いました。

朱: 今回のイベントを通じて、できるだけ広範囲のエリアに向けて江夏の知名度を浸透させ、無形文化遺産と観光業などが繋がって江夏の交流人口の増加に繋がれば、と。それくらいのスケールで徐さんは考えていらっしゃいました。

徐さん: これまでも企業などとコラボレーションしたことはありますが「江夏の日常に無形文化遺産を」は、無形文化遺産に関するイベントのスケールとして最大規模となります。

朱: イオンモール武漢江夏のお客さまのうち、約60%は36歳以下の方です。つまり、ファミリーや大学生など若い世代に無形文化遺産を知ってもらい、触れ合いを通じて理解を深めてもらい、保護への意識を高めてもらう絶好の機会であると考えました。

2月の春節には展示や京劇、民族音楽会など、5月は体験教室を中心に実施し、6月は「文化と自然遺産の日」に合わせたビッグイベント、10月は学生を招いた公開授業と、年間を通じて行うことができました。

徐さん: 反響は予想以上のものでしたね。オンラインを含め、年間で20万人以上の方に参加いただき、政府の協力などもあって約40のメディアに取り上げられ、合わせて450万以上の閲覧数に達しました。

朱: 「文化と自然遺産の日」のイベントは、ネットで生中継が行われ約15万人が同時視聴という結果も出ています。その日から9日間、政府や大学と共同で、50のブースで無形文化遺産及び伝統文化をモチーフにしたデザイン商品の（中国語：文創商品）展示を行い、大いに盛り上がりました。



「文化と自然遺産の日」の来場者の様子



「文化と自然遺産の日」の来場者の様子

イベントに参加してくれた 若者たちの反応に手応えを感じて

朱: 若者がさまざまな無形文化遺産と楽しく触れ合っている様子に、私はとても驚きました。というのも、若者は伝統的なものに関心がないという印象があったからです。まさに、若い世代へ伝承の種を蒔くことにもつながったように思います。服飾を専攻している学生さんや子どもたちによるファッションショーも印象的でしたね。来場者の中にも、中国の伝統的な衣装を着て参加している方が見られました。

徐さん: 私も若者の反応がうれしかったです。イベントに参加し「江夏にはこんな無形文化遺産があるんだ」と驚き、そのあと江夏区文化館に連絡をくれる人も多くいました。また、ファッションの企画では新しいつながりも生まれました。武漢出身で雲南省を拠点に活動しているファッションフォトグラファーの紹介により、雲南省の方にもイベントに協力・参加していただくことができました。雲南省は、無形文化遺産の保護や継承・発展において先進的な取り組みを行っているエリアです。さまざまなユニークな試みを行っていて、私たちとしても学ぶべき点が多いと感じています。今回、雲南省の方々との打ち合わせや対話を通じて、とても刺激を受けましたし、新しいアイデアを得るきっかけにもなりました。特に、業界を超えたコラボレーション



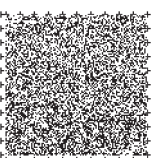
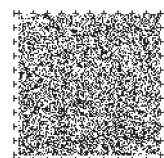
にはポテンシャルがあると再認識しました。私は個人的にも日本の文化に関心が高いのですが、日本の伝統文化である「浮世絵」がファッション業界とコラボレーションしている事例などもあり、参考になりますね。若者へのアピールは今後も最も重要な課題だと思いますので、積極的に現代的な生活と融合したチャレンジをしていきたいです。雲南省のような周辺の広域エリアとの関係や連携が生まれたのも、このような大規模なイベントを実行した副産物だと感じています。このネットワークを活用して、それぞれの地域の無形文化遺産の保護と拡大のため、また、江夏区の伝統文化を世の中に広げるため、相互交流していけると良いと考えています。

継続的に取り組むことの重要性 新しいアイデアを形にしてい

徐さん: イオンモールができたことで、

江夏区はより若者が集まる活気あふれるまちになったように感じています。これからも集客力を活かし、さまざまな取り組みをしていただきたいと思います。例えば、モール内に無形文化遺産の常設展示や体験エリアを設けていただいて、伝承者によるイベントなどを定期的に開催できたら良いですね。また、一緒に文化発展機関を立ち上げられると、さらに可能性が広がります。

朱: ぜひ、一緒に考えていけたらと思います。イベントに参加いただいた地域の皆さまから「継続的に実施してほしい」というお声を多くいただいています。今回のような取り組みを通じて「地域の皆さまが地域を愛すること」に寄与し、結果的にイオンモールを愛していただくことにつながることを願っています。すでに、江夏区の無形文化遺産食品に出店していただき地域の皆さまに親しんでいただく、武漢市にある3つのモールと連携し、無形文化遺産の紹介・体験の機会をつくっていくなど、新しいアイデアが生まれています。流行の発信拠点であるからこそ、伝統の再発見拠点でもありたい。江夏区文化館や広域エリアのさまざまな組織とも連携してその役割を担っていきます。



PROJECT CASE 02

にんせいがい
中国 寧西街合同就職説明会

イオンモール 広州新塘 | 中国広東省広州市増城区寧西街

モールのあるエリアは国家級経済技術開発区として、ハイテク産業を中心に企業誘致が進んでいます。寧西街のみならず、増城区、黄浦区、東莞市からも来館いただいています。

企業と求職者の架け橋となり
地域経済の発展に貢献する。

どんなプロジェクト？

企業と求職者とのコミュニケーションの場を提供し、雇用促進と企業の雇用問題の解決、地域経済の発展に取り組んでいます。2024年は、寧西街道（労働所）と連携し、モール内の共有部で大規模な合同就職説明会を3回開催。累計で約360社が9,400件以上の求人情報を提供し、就職活動の指導や政府の関係政策の紹介なども行いました。



ここがポイント！

複数の部門が連携し、館内のチャネルやSNSなどを活用した広報活動を展開。その成果として、大学卒業後数年以内の熱意あふれる若い世代が多く参加し、ブース前には長蛇の列ができました。今後も、寧西街道（労働所）をはじめとする各政府部門との連携を深め、企業や求職者のニーズに応えられるより質の高い就職説明会を積極的に開催していきます。

PROJECT CASE 03

ベトナム 全国ムエタイチャンピオンシップ 2024



イオンモール ビンズオンキャナリー | ビンズオン省トゥアンアン

急速に都市化が進むエリアに位置し、住宅地、ビジネスゾーン、教育機関に囲まれています。地域の皆さまや観光客に向けたさまざまな文化イベントを実施し、地域の魅力を伝えています。

国家規模の大会を開催し
スポーツの振興を支援する。

どんなプロジェクト？

「ムエタイ」の魅力発信と、全国でトレーニングに励む選手のレベルアップを応援するため、ビンズオン省と連携し、館内で「ムエタイ」の全国大会を開催しました。29の省と都市から約400名の選手が参加し、期間中は18万4,000人以上が来館。館内はスリルと興奮に満ち、文化的な誇りを感じられる大会となりました。

ここがポイント！

外部パートナーや専門店とも協力し、国家規模の大会開催に成功。大会参加者の中から優れた選手が選抜され、国際大会や大陸トーナメントに向けたサポートを受けることができます。これからも、ビンズオン省との連携を継続し、全国的なイベント競技会を開催し、地域の皆さまや観光客に新たな体験と興奮をもたらしていきます。



PROJECT CASE 04

カンボジア カンボジア王立芸術大学との
文化芸術振興に向けた取り組み

イオンモール ミエンチェイ | プノンペン市ミエンチェイ区

首都プノンペンの副都心として開発が進むエリアにあり、人口増加が見込まれています。伝統文化の発信地として、地域の方にエンターテインメントや教育のコンテンツを提供しています。

伝統文化の発信地として
芸能の魅力を広げていく。

どんなプロジェクト？

若者は日頃、自国の伝統芸能に触れる機会が少なく、専門の演者も限られた場所しか自分の才能が披露できないという課題があります。そこで、政府によるカンボジア芸術の最高教育センター「カンボジア王立芸術大学」と連携し、学生による伝統的なクメール文化パフォーマンス、ダンス、演劇などの芸術ショーを毎月開催しています。



ここがポイント！

クメール文化を体験したいときに最初にイオンモールミエンチェイが思い浮ぶ、そんな存在をめざしています。定期的に毎回異なるパフォーマンスを実施し、ステージに近い席は開始2時間前から並び始めるほどお客さまから期待されています。これからも「エデュテインメント (Education + Entertainment)」というモールコンセプトのもと、さらに取り組みを強化し、伝統文化を次世代につなげていきます。



PROJECT CASE 05

インドネシア 文化の学習やスポーツ体験



イオンモール ジャカルタガーデンシティ | ジャカルタ首都特別州東ジャカルタ市

住宅建設や道路整備が進む、人口密度の非常に高いエリアに位置。親しみやすい空間づくりを大切に、さまざまな活動やプログラムを通じて地域コミュニティの活性化を支援しています。

コミュニティと連携し
地域の文化と健康的な暮らしを支える。

どんなプロジェクト？

インドネシア文化の理解や健康的なライフスタイルの促進をめざし、文化の学習やスポーツ体験の機会を提供しています。具体的には、伝統的なダンスやパウンドフィット（全身運動）、インラインスケート、ブンチャック・シラット（伝統武術）などのプログラムを開催し、月間で約1,500人の方にお楽しみいただいています。

ここがポイント！

地域のコミュニティやインストラクターの皆さまと強力なパートナーシップを育み、創造性や情熱あふれるプログラムを提供しています。参加者の皆さまからは「自分の興味や才能を再発見できた」といった喜びの声をいただいています。今後も新しいプログラムを開発し、地域の皆さまの記憶に残る体験を提供していきます。

